

案内

神学校日礼拝について

日本キリスト教団では、毎年10月の第2日曜日を伝道献身者奨励日(神学校日)として、将来牧師となってキリスト教の伝道のために献身する人々を覚え、また神学校のために祈る日としています。これに基づき、今週は各キャンパスの礼拝で神学校に学んでいる方々に奨励をしていただく日を設けています。

東日本大震災の被災地を覚えての祈禱会

被災された方々とそのご家族、復興のために尽力されている方々を覚え、共にお祈りください。

10月11日(木)

青山キャンパス 本部礼拝堂 12時35分～13時

相模原キャンパス ウェスレー・チャペル2階 小礼拝堂 12時35分～13時

青山学院大学聖歌隊 第31回定期演奏会

日時 10月13日(土) 開場14時30分 開演15時

場所 青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂

後期チャペル・ウィーク

各方面で活躍されている著名なクリスチャンの方をお招きして礼拝でお話をさせていただく1週間です。礼拝時間も通常より10分延長して実施します。是非ご出席ください。

相模原キャンパス(月～土 10時25分～11時5分)

10月15日(月) 西原 廉太(立教大学副総長、立教大学大学院キリスト教学研究科教授)

16日(火) 鈴木 実(日本聾話学校教頭)

17日(水) 柴園 香(フルート奏者、日本クラシックコンクール審査員)

18日(木) 兼松 努(ギタリスト、音楽事務所(有)兼松企画代表取締役)

19日(金) 坂戸 真美(本学オルガニスト、カトリック碑文谷教会オルガニスト)

20日(土) 船津 創(浦和ルーテル学院小中高等学校教諭、本学史学科卒業生)

青山キャンパス(月～金 10時25分～11時5分)

10月15日(月) 新垣 勉(独立伝道者、テノール歌手)

16日(火) 石居 基夫(ルーテル学院大学キリスト教学科教授)

17日(水) 佐々木 炎(ホッとスペース中原理事長、日本聖契キリスト教団中原キリスト教会牧師)

18日(木) 伊奈 久喜(日本経済新聞特別編集委員(外交・安全保障担当)、本学非常勤講師)

19日(金) 宮川 真一(JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)バングラデッシュ派遣ワーカー(医師))

夕礼拝(第二部礼拝)(火 19時25分～20時5分)

10月16日(火) 北島 茂(㈱プロメディア代表取締役)

青山スタンダード科目「キリスト教理解関連科目」特別講座 兼松 努 コンサート

チャペル・ウィークでの礼拝に引き続き、兼松 努さんのコンサート(ジャズ)を行います。

日時 10月18日(木) 11時15分～12時30分

場所 相模原キャンパス ウェスレー・チャペル

演奏 兼松 努(ギター)、スティーブ・サックス(サックス)、カズ加藤(キーボード)
平 陸(ドラムス)

青山学院大学礼拝週報

2012. 10. 8.

No. 20

神の国節第19週

キリスト教のシンボル [18]

「祈る手」

キリスト教信仰において「祈り」は、神と直接対話する信仰生活の中心的行為です。

この絵は、ドイツのデューラーという人の作品ですが、デューラーは若い頃、友人と二人で絵の修行をしていました。二人はあまりに貧しかったため、ある時から一人が絵の修行に打ち込んで、もう一人が働いて生活費を稼ぐことにしました。

初めにデューラーが修行をすることになり、友人は必死に働きました。しかし、何年かたってデューラーの描いたものが売れるようになった時には、長い激しい労働で、この友人の手はもはや絵筆をもつには余りに節くれだつて、指も曲がってしまっていたのでした。

あるときデューラーは、この友人がごつごつした手を合わせて、デューラーが有名になったことを心から喜んで祈っている声を聞きました。デューラーは感動と衝撃のあまり、その祈りの手を永久に残そうと筆をとりました。それがこの作品であり、いまでは自己犠牲と感謝と他者の幸福を願う祈りのシンボルとしても用いられています。



今年度の主題聖句

わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、

忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。

(ローマの信徒への手紙 第5章3、4節)